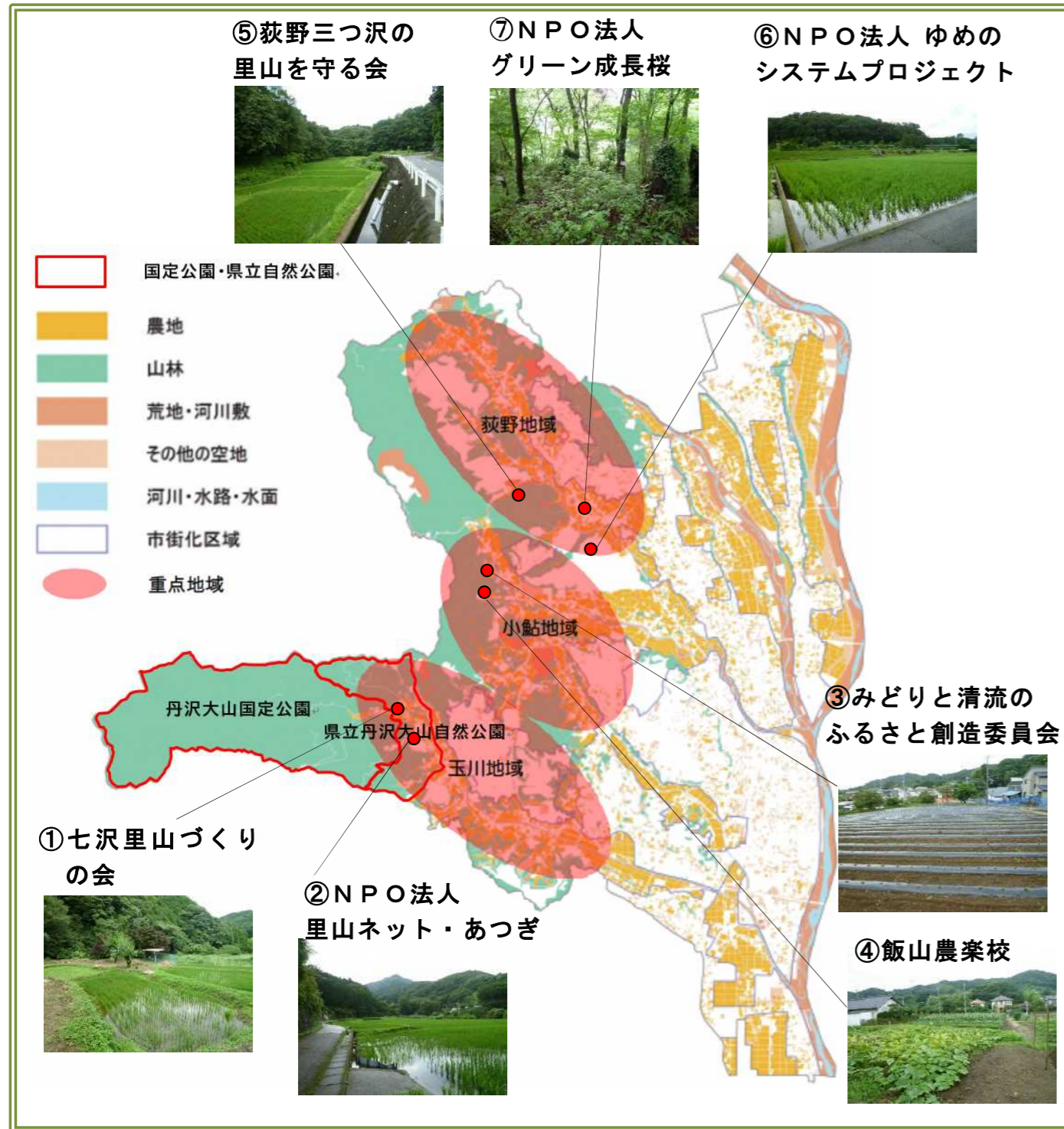


1. 里地里山保全等活動団体の活動地域




2. 活動団体の紹介


2.1 七沢里山づくりの会

No	項目	内容
1	発足	平成10年
2	活動地域	玉川地域（七沢）
3	会員数	12人
4	代表者	浅川 胤美 氏
5	主な活動	遊休農地を借り米、里芋、落花生等を栽培。その他に里山整備、炭焼き等を実施。 また、市の里山体験事業である「里山マルチライブプラン」を平成14年から開催し、公募の市民ボランティア、NTT（株）、ソニー（株）、横浜国立大学などと協働し、月1回程度（主に第3土曜日の午前中）に里地里山の保全等の活動をしている。
6	協定面積	2,252㎡（水田）
7	成功事例	・補助金と、必要な道具は借りる等の節約もあり経済面は順調である。 ・市の里山マルチライブプランによりボランティアは、増加している。 ・会員とボランティアで分業がうまく機能している（質が求められる作業は会員、補助的な作業はボランティア）。
8	課題	・後継者の育成が進んでいない。地域に若い人がいない。後継者を募るにはメリットが必要（地域外から来るボランティアは無償だが、地域の指導者は有償にするなど） ・ボランティアに質を求めることは難しい。頼めることに限界がある。
9	地域資源	○味覚 米、サトイモ、落花生、その他農作物、マス釣り場（管理釣り場） ○体験 米作り、野菜作り、収穫体験、下草刈り等の里山整備、収穫祭 ○生き物 アカハライモリ、シオカラトンボ、マユタテアカネ ○景観・歴史文化 里山景観、巨石群、なめり岩 ○宿泊 七沢温泉
10	活動写真	


2.2 NPO 法人里山ネット・あつぎ

No	項目	内容
1	発足	平成22年
2	活動地域	玉川地域（七沢）
3	会員数	43人
4	代表者	前場 政行 氏
5	主な活動	遊休農地を借り米、サツマイモ、カボス、ブルーベリー等を栽培。森林、竹林整備も併せて行っており、米、サツマイモ、カボスは一部を地元酒造会社に供給している。東京農業大学や日産自動車(株)のNICE WAVE活動と協働し、体験学習等も開催している。
6	協定面積	3,889㎡（水田）、7,502㎡（畑）、160㎡（その他）
7	成功事例	・地元酒造会社に米・サツマイモ・カボスを供給している。地元酒造会社としては地元産の原料の活用で、製品の付加価値を上昇でき、団体側は販路と繁忙期の作業ボランティアの提供を受けられることもあり、WIN-WINの関係性である。 ・日産自動車(株)と体験学習という形で作業を手伝ってもらう代わりに、収穫した農作物を安価で提供している。
8	課題	・会員が高齢化し、後継者が不在である。地元の方に会員として加入していただきたいが、農家は自身の農地で手一杯であり、また、七沢地域自体が過疎化している。 ・コロナ禍の影響で、不特定多数の人が集まるイベント活動が中止となっている、今後の保全活動への影響も懸念される。
9	地域資源 ※赤字は、団体が参加者へ提供できるメニュー	○味覚 米、サツマイモ、カボス、その他農作物、ジビエ（シカ・イノシシ） ○体験 米作り、野菜作り、収穫体験、木工細工、マス釣り（管理釣り場） ○生き物 カブトムシ（イベント等で幼虫の販売をしたこともある）、マメゲンゴロウ等の水生昆虫、アカハライモリ、シオカラトンボ、マユタテアカネ ○宿泊 七沢温泉
10	活動写真	


2.3 みどりと清流のふるさと創造委員会

No	項目	内容
1	発足	平成16年
2	活動地域	小鮎地域（飯山）
3	会員数	29人
4	代表者	小島 富司 氏
5	主な活動	遊休農地を借り花の里の管理、ザル菊、ロウバイ等の栽培、里山景観を後世に残すため、里山整備を積極的に行っている。また、地域の活性化を目的に、花の里を会場とした「ポピーまつり」や、「あつぎ飯山秋の花まつり」を開催している。
6	協定面積	4,925㎡（畑）
7	成功事例	・花の里の祭りには、川崎や横浜など地域外の人にも来るようになった。 ・「飯山農楽校」と交流があり、機材の貸し借りや保全活動のノウハウを共有している。
8	課題	・後の世代へ地域の歴史文化を継承したい。飯山観音、金剛寺、龍藏神社等の文化財に加え、飯山の昔話や七不思議等の伝承がある。 ・コロナ禍の影響で、県外では花見客による三密を防ぐため、花を刈り取った事例を目にした。今後の花の里の祭りへの影響を懸念している（今年度のあつぎ飯山秋の花まつりは中止）。
9	地域資源 ※赤字は、団体が参加者へ提供できるメニュー	○体験 花の栽培、緑や川を楽しめるハイキングコース、伐採した竹を利用したキャンドルファイヤー（竹の節にロウソクを入れる）、 ○生き物 メジロ、アユ、ウナギ ○歴史・文化 金剛寺、龍藏神社、飯山観音、100体地蔵（江戸時代に子供が育たず、大きくなった姿を地蔵に託した）、飯山の昔話・飯山七不思議の伝承 ○景観 春のポピー、秋のざる菊、白山山頂からの眺望 ○宿泊 飯山温泉
10	活動写真	


2.4 飯山農楽校

No	項目	内容
1	発足	平成29年
2	活動地域	小鮎地域（飯山）
3	会員数	10人
4	代表者	渡辺 一夫 氏
5	主な活動	耕作放棄地を活用し滞在型体験農園（クラインガルテン）を展開。飯山地区の温泉旅館と連携しており、農園利用者は年1回、旅館に宿泊して体験農園を楽しむことができる。50区画が整備され、利用者は月1回程度の農業指導を受けながら、年間を通じて18種類以上の野菜を栽培することができる。
6	協定面積	5,825㎡（畑）
7	成功事例	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が、収穫体験を通じて野菜が好きになり、親から感謝された。 ・農協と連携できており、作物の栽培で営農指導員から助言を得ることができる環境にある。 ・メンバーの役割が明確である。農業指導者、会計、広報（ブログやソーシャルメディア等活用）の分担により円滑に運営できている。
8	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者、後継者として①地域への深い理解と②豊富な里地里山の知識がある人材が必要。 ・活動人員が高齢化していることもあり、環境整備を楽しみながら参加してくれるボランティアの様な仲間を求めている。 ・荒廃農地、遊休農地が増大している。鳥獣等による農作物への被害が深刻である。
9	地域資源 ※赤字は、団体が参加者へ提供できるメニュー	<ul style="list-style-type: none"> ○味覚 ジャガイモ（3～6月）、トマト（4～8月）、トウモロコシ（4～8月）、サツマイモ（5～11月）、その他農作物 ○体験 タケノコ掘り（春）、ジャガイモ掘り（6月）、トウモロコシ収穫体験（7～8月）、サツマイモ掘り（10月）、焼イモ（10～11月）、ソバ打ち体験、落花生（ピーナッツ）の収穫体験、藤カゴ作り、体験農業 ○景観 飯山観音、あつぎ飯山桜まつり、千本桜 ○宿泊 飯山温泉への宿泊（農業体験付き）
10	活動写真	


2.5 荻野三つ沢の里山を守る会

No	項目	内容
1	発足	平成14年
2	活動地域	荻野地域（上荻野）
3	会員数	13人
4	代表者	東條 隆夫 氏
5	主な活動	遊休農地を借り米の栽培と棚田周辺の下草刈り等の環境整備を実施している。また、市の里山体験事業である「里山マルチライブプラン」を平成14年から開催し、公募の市民ボランティアと協働して、月1回程度活動を行っている。（例年6月から10月までの土曜日）
6	協定面積	3,888㎡（畑）、3,162㎡（山林）
7	成功事例	<ul style="list-style-type: none"> ・「サポート隊」という独自の仕組みを作り、若干ではあるが会員は増加傾向にある。 ・イノシシの被害は、電気柵を設置してから無くなった。
8	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・東側の植林の樹高が高く陽当たりが悪い。（地主による）間伐は補助金が出たタイミングになるので、中々進んでいない現状がある。 ・会員の高齢化が進んでいる。また、ボランティアには1年で来なくなる人も多い。 ・協定地の返却時に、原状復帰が必要である。小屋等は、返却時に解体・更地にするため、金銭的な負担が懸念される。
9	地域資源 ※赤字は、団体が参加者へ提供できるメニュー	<ul style="list-style-type: none"> ○味覚 米（通年）、その他農作物 ○体験 米作り、米の収穫（9月）、下草刈り等の里山整備、カエルの合唱を聞く（6月）、ホタルの観察（6月上旬） ○生き物 ドジョウ、タニシ、メダカ、オニヤンマ等の水田の生き物、ゲンジボタル（少ない） ○景観 棚田の景観（特に田植え後）
10	活動写真	

2.6 NPO 法人ゆめのシステムプロジェクト

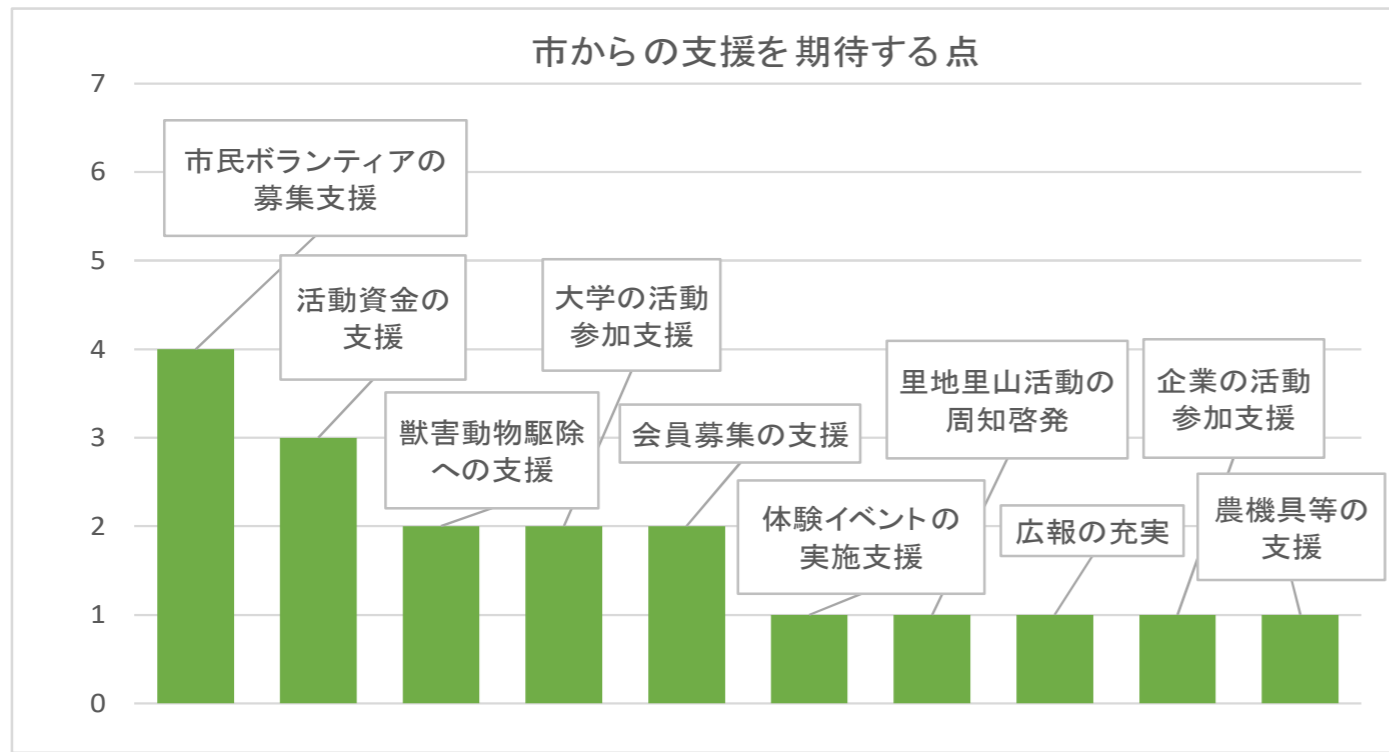
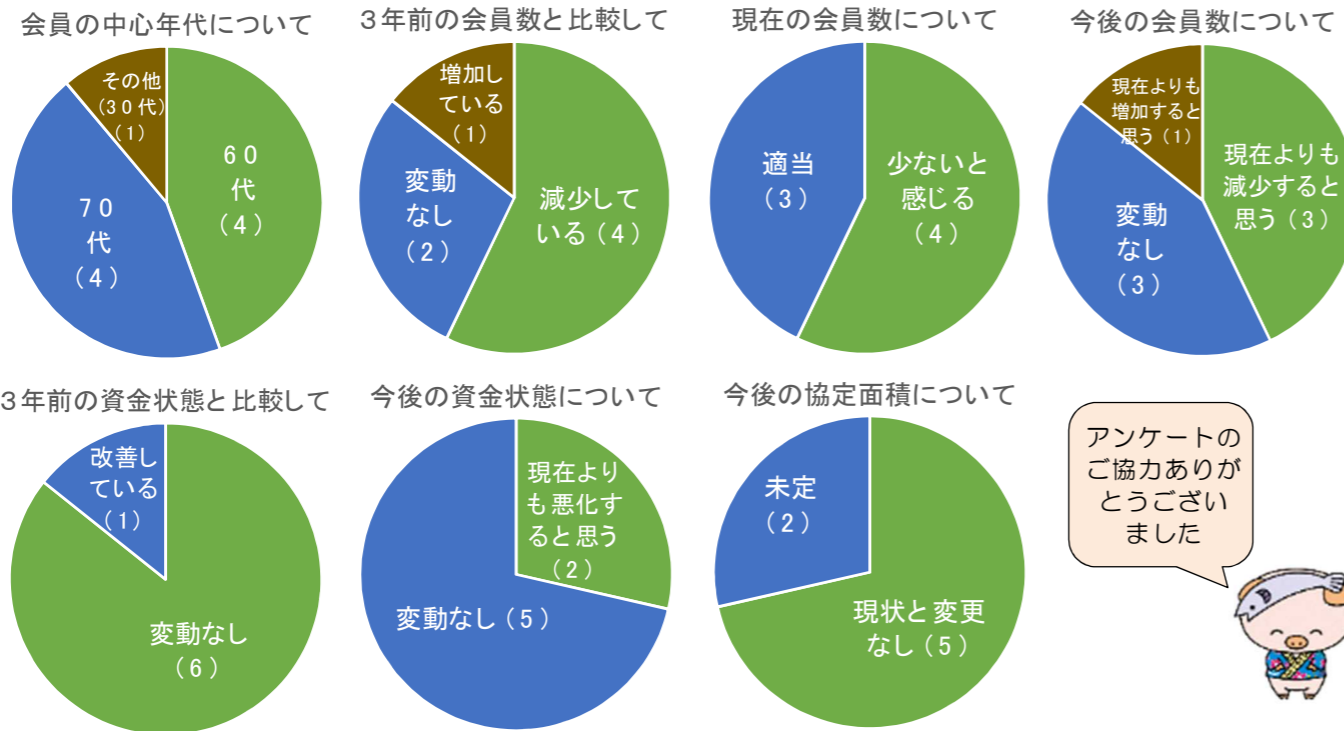
No	項目	内容
1	発足	平成26年
2	活動地域	荻野地域（下荻野）
3	会員数	41人
4	代表者	熊澤 光政 氏
5	主な活動	遊休農地を借り、アイガモ農法による米の栽培を実施。 また、地域住民や子どもを対象とした田植体験、稲刈体験、収穫祭を行う。付近にホタルが生息する湧水地もあり、周辺一帯の環境整備に向け活動している。
6	協定面積	5,250㎡(水田)
7	成功事例	・アイガモ米は、市場に比べると安価ということもあり、会員に大変好評を得ている。 ・ビニールハウスで、レタス・トマトの水耕栽培をしている。この水耕栽培の水で金魚も飼育している。今のところ順調である。 ※アクアポニックス（魚の養殖と水耕栽培を組み合わせたシステム）を参考にした。食物連鎖を通じ、養殖魚の排泄物が農産物の栄養となる。
8	課題	・近隣からアイガモの雛の仕入れができない。毎年度、千葉から仕入れる必要がある。 ・アイガモの雛が、カラスにさらわれる危険があるため、水田をネットで囲う必要がある。 ・無農薬や減農薬は、米の栽培が難しく収量が減る。特に、無農薬栽培はコストや手間がかかる。収益は度外視しなければならない。
9	地域資源 ※赤字は、団体が参加者へ提供できるメニュー	○味覚 アイガモ米（無農薬）、アイガモ、その他農作物 ○体験 米の田植え、収穫体験、アイガモ観察、ホタルの観察(6月上旬) ○生き物 ゲンジボタル
10	活動写真	

2.7 NPO 法人グリーン成長桜

No	項目	内容
1	発足	平成16年
2	活動地域	荻野地域（中荻野）
3	会員数	45人
4	代表者	原田 正明 氏
5	主な活動	鳶尾山全体の里山づくりを目指し、間伐、伐採、下草刈り、植樹、自然観察会等を行っている。平成17年から毎年、植樹祭を実施。これまでに約2,500本の苗木を植樹し育成管理を行っている。 神奈川工科大学の学生がボランティアとして協力したこともあり、植樹祭には地域住民、地元の小中学生も参加するなど幅広い年齢層が連携・協働し、地域づくり、里山づくりを行っている。
6	協定面積	22,917㎡(山林)、462.8㎡(宅地)
7	成功事例	・金毘羅神社斜面の高木を伐採したことで、元旦の御来光が再び見られるようになった。多くの人が集まるようになった。 ・冬期の活動では、10時と12時にティータイムを設けた。休憩と同時に、会員同士の交流にもなり好評である。 ・チェーンソーや刈り払い機の講習を外部で受けている。また、活動日でも雨が降れば中止する等、安全に十分配慮している。危険な場所の多い山でも怪我なく活動できている。
8	課題	・若い担い手の育成が必要である。現状では、高齢化で将来活動が困難となる。 ・高木の伐採には危険が伴う。伐採した木の搬出も困難である。 ・コロナ禍の影響で、本年度はあまり活動ができていない。
9	地域資源 ※赤字は、団体が参加者へ提供できるメニュー	○味覚 しいたけ ○体験 間伐、里山の下草刈り、植樹、鳶尾山のハイキング ○景観 春の桜、秋の紅葉（もみじ狩り）、鳶尾山山頂からの眺望
10	活動写真	

3. アンケート結果（令和2年1月実施）

里地里山保全活動を実施する団体に依頼したアンケート調査の結果を以下に示します。



<やりがい>

- ・ボランティアの方からの感謝
- ・里山の保全
- ・地域との連携
- ・農業体験・自然とのふれあい

<課題>

- ・高齢化と会員数の減少
- ・鳥獣被害

<解決事例>

- ・収穫物の食事会やカフェタイムによる保全意欲の向上
- ・鳥獣被害対策としての電気柵設置

4. 活動団体相互の連携について

「かながわ里地里山保全等促進指針（神奈川県）」では、活動団体相互の連携強化が掲げられており、厚木市においても次期計画の短期目標で、相互連携を1つのテーマとしています。

【次期計画の短期目標】

継続的な里地里山の保全活動を通じて、拠点間ネットワークの形成を目指します

また、令和2年8月6～7日に実施した活動団体へのヒアリングでは、今後の里地里山保全活動の在り方について、多くのアイデアをいただくことができました。

今後の相互連携を見据えていく中で、各団体へのいただいた情報を共有するという観点から、次のとおり整理をしました。

(ア) 里地里山保全等の活動補助金について

No	項目	内容
1	ヒアリング時に頂いた情報（団体名）	・補助金は、イオン環境財団や厚木市の公民館等からも受けている。イオン環境財団の補助金は機材の購入など用途の制限が少なく、使い易い（NPO法人グリーン成長桜）。
2	メリット	・補助金の選択肢を増やすことで活動資金が増え、保全活動範囲や内容を広げられる。
3	課題	・補助金の使途が限られる場合が多い。 ・補助金が交付可能な団体数や、金額に限りがある。厚木市内の活動団体で競合する可能性も有りうる。 ・申請や記録、報告等の事務作業が増える。同時に、管理も煩雑となりやすく、事務作業に長けたメンバーが必要となる。

(イ) 企業や大学等との協働について

No	項目	内容
1	ヒアリング時に頂いた情報（団体名）	・飯山地区の温泉旅館と連携して、宿泊付きの農業体験ができる（飯山農楽校）。 ・横浜国立大学の学生がフィールドワークも兼ねて、保全活動のボランティアに来る。ソニー(株)やNTT(株)も、社会貢献活動としてボランティアに来ている。以前は、ソニー(株)の社員と交流会も実施していた。 ボランティアさんについては、会員と比べると作業の質は求められない部分がある。このため、質が求められる作業は会員を中心に任せており、補助作業（草取り等）を中心にボランティアさんに任せる分業を試みており、今のところうまく機能している（七沢里山づくりの会）。 ・大学との協働という意味では、東京農業大学のボランティア部に活動の場を提供している。 また、地元の酒造会社に米・サツマイモ・カボスを供給してお

No	項目	内容
		り、酒造会社としては地元産の原料を活用できることから、製品への付加価値が増大するメリットがある。 また、団体としては酒造会社から、供給先と繁忙期の作業ボランティアの提供を受けており、双方がWin-Winの関係性になることから始めた（NPO法人里山ネット・あつぎ）。
2	メリット	・人手が必要な作業を、大学や企業等と連携して行うことができれば、会員の保全活動にかかる負担が減る。 ・大学や企業といった他の主体と協働して保全活動を実施することで、団体としても実績を積み上げることができ、結果として対外的なアピールポイントにもつながる。
3	課題	・大学や企業等のキーマンが、異動等の事由で不在となってしまうと、双方の関係性が極端に薄れてしまい継続が難しくなる。 ・ボランティアの怪我防止や保険等、安全に配慮しながら保全活動をする必要がある。

(ウ) 保全活動における道具の共有について

No	項目	内容
1	ヒアリング時に頂いた情報（団体名）	・チェーンソー、薪割り機、木材運搬装置、トラクター、刈り払い機を保有している（七沢里山づくりの会）。 ・田植え機を保有している（荻野三つ沢の里山を守る会）。 ・発電機、電動ドリル、充電式バリカン、刈り払い機9台、チェーンソー9台を保有している（NPO法人グリーン成長桜）。 ・トラクター、コンバイン、草刈り機などは、団体で共通に使えるような仕組みが欲しい。現在は、個人の所有物を借りている。なお、軽トラックは保全活動で不可欠なため、団体で2台保有しているが、任意保険等の費用もかかることもあり、金銭面ではかなりの負担となる（NPO法人里山ネット・あつぎ）。
2	メリット	・道具の有無で制限されてしまう保全活動を活性化できる。 ・道具の貸借を通じて、他の活動団体等との関係性を構築することが可能になれば、保全活動をする上での広がりが期待できる。
3	課題	・貸借する場合の発生する費用（レンタル料）。 ・道具を破損した際の弁償等のリスク。 ・道具を共有する場合の保管場所やメンテナンス、責任者などの設定。

(エ) 各団体の助言可能なノウハウ、提供可能な知識について

No	項目	内容
1	頂いた情報（団体名）	○「米作り、炭焼き」（七沢里山づくりの会） ○「米作り、サツマイモの栽培」と「農産物の販売による活動資金の獲得」（NPO法人里山ネット・あつぎ） ・地元酒造会社に米やサツマイモ等を納入している。 米は、美味しいとのことで、リピーターがおり販路も確保できている。その他の農産物は、地域の祭り等で販売をしている。果樹のうち、ブルーベリーは市外のNPO法人を通じて、道の駅に置かせてもらっている。 ○「花の栽培方法や花を育てる講座の講師」、「飯山七不思議など地域に伝承されている民話の講師」（みどりと清流のふるさと創造委員会） ○「農業（野菜作り）指導、農業に興味がある人向けの農業塾のようなワークショップ」、「ブログやソーシャルメディアなどインターネットを活用した情報発信」（飯山農楽校） ・ITに詳しいスタッフがあり、会の宣伝や会員の増加に貢献している。 ○「米作り、後継者の育成」（荻野三つ沢の里山を守る会） ・「サポート隊」という独自の仕組みを作り、会員の増加に努めている。サポート隊は、活動場所の近隣に住むボランティアと会員の中間に位置づけられる立場で、会費は取っていない（会員の会費は6千円）。また、会員並みの作業量や質は求めず、会員と比較して保全活動の負担は少ない状態にしている。サポート隊から活動に適した人材を育成し、最終的には会員になってもらうことで、後継者を育てている。 ○「無農薬、減農薬による米作りとアイガモ農法」（NPO法人ゆめのシステムプロジェクト） ・アイガモの仕入れから販売まで知識がある。 ○「植樹や高木の伐採」（NPO法人グリーン成長桜） ・伐採したコナラ等の広葉樹は、シイタケの栽培に利用している。
2	メリット	・お互いのノウハウや知識の水平展開により、活動の活性化が期待できる。 ・ノウハウや知識を共有する際に、人的なネットワークが広がる。
3	課題	・保全活動の場所によっては、環境的な制限で活用が不可能なノウハウや知識もある。